



ほぼ毎日4～6時間のリンク練習にバレエなどのレッスン、そして塾や家庭での学習と大忙し。友達のおしゃべりが息抜きだ。

ジュニアフィギュアスケート グランプリファイナルに出場 14歳 紀平梨花選手が4位

12月8日～9日にフランスのマルセイユで行われたフィギュアスケートのジュニアグランプリファイナル選手権(GF)に、西宮市出身の中学3年生、紀平梨花選手が出場。ショートプログラム5位から巻き返しフリープログラム(FP)では3位、総合4位と健闘した。それに先立って11月中旬、練習拠点である関大たかつきアイスアリーナで話を聞いた。



バレエとダンスの個人レッスンを数カ月前からスタート。ジャンプだけではなく、表現力も磨いて、「シニアにあがったときに観客を魅了する選手になりたい」。

初のGFで4位 希少な大技が持ち味

GFは世界のトップ6選手のみが出場でき、今回はうち3名が日本選手で、紀平選手のほか坂本花織選手(16歳)、本田真凜選手(15歳)とも関西出身だ。同世代ということもあり、ライバルとしてメディアに取り上げられることが多いが、「二人とも友達。ライバルとは少し違う。みんなレベルは高いし、すごく刺激になるけど、あくまでも自分に勝つことが目標」と話す。紀平選手は2016年のチェコ大会で2位入賞、さらにスロベニア大会でトリプルアクセルを決めて優勝し、今

回のグランプリファイナル進出につながった。これまで公式試合でトリプルアクセルを成功させた女子選手は世界で他に6人しかいない。紀平選手は中学1年生で取り組み始め、わずか2、3カ月で飛べるようになったという。

幼少期に源流あり 類まれなる運動神経

取材時に同じリンクで練習していた10人ほどのシニア・ジュニアの選手達と比べてみても、紀平選手は身長149cmと小柄で体の線も細い。しかし、繰り出すジャンプの迫力はシニア

にも劣らない。その体力はどこから来るのか。紀平選手の母親によると、幼少期から身体能力は高く、通っていた幼稚園の運動会では男児らを抜いて常に1位だったとか。並外れた才能を見出した両親は、バレエやダンス、体操、スイミングなど様々な習い事をさせ、フィギュアスケートもそのひとつだった。

3歳のときに家族で神戸のアイスリンクに遊びに行ったことがきっかけで、フィギュアスケートに興味を持ち、5歳より難波の教室に通い始める。その後、更なる技術向上を目指して、小学校5年生から日本のトップ選手、宮原知子選手らを指導する濱田美栄コーチに師事するようになる。

紀平選手の母親は「小さい頃に運動をさせて筋力を身に付けたのが良かったのかも。無理強いせずいろいろやってみたが、フィギュアだけが長続きました。本人はフィギュアが大好き。本人のやる気、意志が一番大切」と話す。

今回の試合では惜しくも着地に失敗したが、FP直前の公式練習では、前人未達のトリプルアクセル+トリプルトゥーループを成功。2018年の平昌五輪には年齢が1カ月足りず、出場資格がないが、「その次の北京五輪までに、ジャンプも表現力ももっと磨いて、万全の準備をして挑みたい」と意欲的に語った。

“日本一厳しい”看板規制条例 戸惑う事業者も

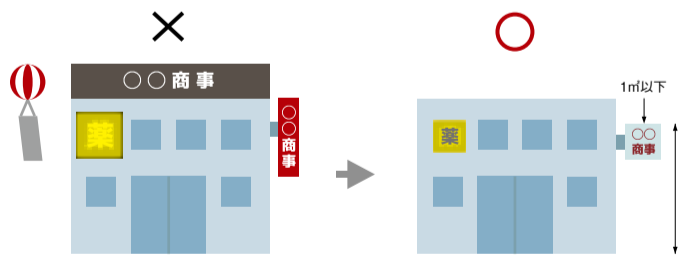
芦屋市では、「日本一美しいまち」を実現させるべく、2016年7月に“日本一厳しい”と市が掲げる「屋外広告物条例」を施行させた。市内を7地域に分け、芦屋川沿岸などは景観を守るためより厳しい基準を設け、国道沿いや駅前などの商業地域は規制を緩やかにして、商いの活性化に一定の配慮を見せた。経過措置があるため11月末時点で撤去、改修の助成制度への届出は5件程に留まっている。

芦屋市が実施した状況調査(2016年1月時点)によると、県条例による許可申請をしていない看板数は43%にのぼり、県条例には合致しているが市条例に不適合なものは10%ほどだ。2017年3月末までに調

査を完了させ、不適合なものには通達書を送り説明する予定。掲出物によるが、県条例に合致し、是正計画を市に提出・認定されれば現状の看板でも最長2026年6月末まで掲出が可能だ。撤去や改修には補助金の一部出る。この条例について市内の飲食事業者は、「看板は店にとって命。正直困惑している」と話す。市の担当者は「まずは県条例に合致していることが大前提。内容が分からない場合は相談に訪れてほしい」と理解を求めている。

【“日本一厳しい”屋外広告物条例の一例】

- 突き出し看板は小規模なもの以外は設置できない
- 赤や黄色の原色禁止など、色の鮮やかさによって使用面積を規制
- 1文字当たりの面積は、1㎡以下(設置高さが15m超の場合2㎡以下)
- LED又はネオンサイン等の禁止
- アドリブレンの禁止、国道沿いや商業系など以外ではのぼり旗を禁止
- 屋上利用(建築物の高さを超える箇所に設置するもの)の禁止



神戸開港150年 イベントで祝賀

神戸が開港して2017年1月1日で150年になる。開港により、ジャズ音楽やバナナ、マラソンなどさまざまなものが輸入され、全国に普及したと言われている。2017年は記念イヤーとして、さまざまなイベントが港を中心に行われる予定だ。まず、元日の正午に21発の昼花火(空砲)が打ち上げられ、開港を祝う。1月27日～29日には、「紅茶」をテーマとしたKOBE TEA FESTIVALが神戸ハーバーランドdumieをメイン会場として行われ、紅茶のテイステイングやワークショップなどを開催する。紅茶は、神戸に工場が建設されたことがきっかけで全国に広がったと言われている。また、映画も神戸が発祥の地の一つとされており、それにちなんで2月中旬～3月にかけて「35mmフィルム映画祭」が市内の各映



開港当時の神戸の街の様子を描いた絵。右)ほぼ同じところから撮影された現在の神戸の街。



クイーン・エリザベスが史上初、神戸港発着クルーズを実施する。停泊中を見物することができる。



神戸港の歴史や年間イベント情報など詳細は、<http://www.kobeport150.jp/>

画館で実施され、映画めぐりを楽しめるイベントとなる予定だ。3月13日には、外国客船「クイーン・エリザベス」が史上初の日本発着クルーズを行う。その他、帆船フェスティバルや船上ツアーなど、船や港に関するイベントが多数開催される。市の担当者は、「神戸開港を祝うイベントを通して、多くの文化が広がったということにより多くの人に知ってもらいたい」と話す。

家族の絆で「振り込め詐欺」を防ごう

協力:兵庫県警察



平成28年11月末現在、兵庫県下では「振り込め詐欺」をはじめとする『特殊詐欺』の被害が13億円を超えており、被害認知件数の約7割が神戸・阪神地域に集中している。

年齢別に見ると、65歳以上の高齢者の被害が特に目立ち、被害認知件数では約7割、被害額では約8割を占めており、被害に遭わないよう、様々な対策を行う必要がある。高齢者は特に注意し、若い世代には「家族の絆」で高齢者への注意喚起を行うことが重要ではないだろうか。

振り込め詐欺の手口等の詳細は、兵庫県警のHPにも掲載
<http://www.police.pref.hyogo.lg.jp/furikome/index.htm>



[被害に遭わないための対策]

- **必ず誰かに相談を!**
冷静な第三者に相談すれば「詐欺ではないか?」と気づくケースがほとんど。電話でお金の話が出たときは、必ず家族や友人、警察などに相談を。
- **電話機器に対策を!**
電話番号通知サービスを利用し、非通知の電話には応答しないように。留守番電話を活用したり、市販の防犯機能付電話機等を活用するという方法も。
- **金融機関等の声かけにご協力を!**
警察からの要請により、金融機関等では主な被害者層である高齢者が、高額出金する場合に声かけによる使用目的の確認、警察への連絡を行っている。「出金理由を確認させてください。」この声かけと警察への連絡で、多くの被害が未然に防止されているので、使用目的等のお伺いにご協力をお願いします。
- **ATM利用限度額の引き下げを!**
多発している還付金等詐欺対策として家族のATM利用限度額を変更しておくことで、システムの被害を未然に防ぐことができる。